

令和2年4月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和2年4月分について、輸出額は「自動車の部分品」、「自動車」などが減少したことから、対前年同月比28.9%の減少となった。また、輸入額は「原粗油」などが減少したものの、「有機化合物」、「織物用糸及び繊維製品」などが増加したことから、同2.6%の増加となった。その結果、差引額は3,588億円（同47.7%の減少）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

○総額

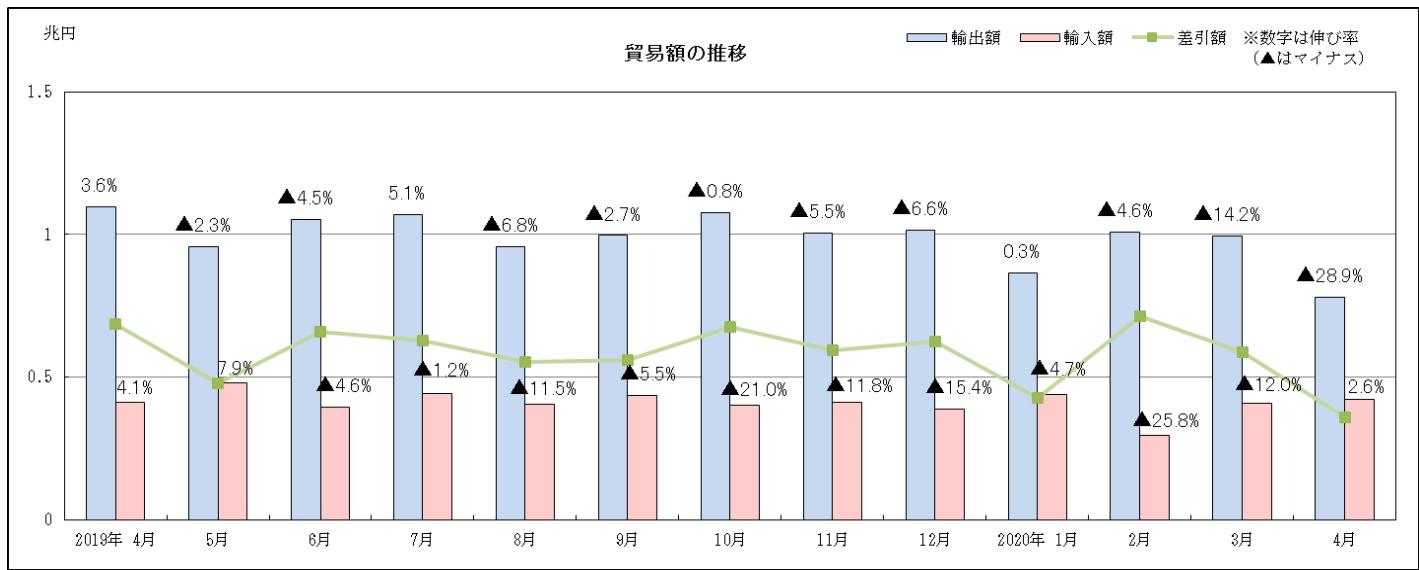
区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	7,796億円	▲28.9%	4,208億円	+2.6%	3,588億円	▲47.7%
	3カ月連続の減少		11カ月ぶりの増加		2カ月連続の減少	
管内（名港シェア）	1兆1,811億円 (66.0%)		7,810億円 (53.9%)		4,001億円 (89.7%)	
全国（名港シェア）	5兆2,023億円 (15.0%)		6兆1,327億円 (6.9%)		▲9,304億円 (—)	

注）名古屋港における輸出額は、平成30年10月以降19カ月（1年7カ月）連続 全国港別第1位（空港を含む）

注）名古屋港における差引額は、平成23年6月以降107カ月（8年11カ月）連続 全国港別第1位（空港を含む）

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 減 (1)	自動車の部分品	1,090億円	▲42.2%	▲7.2	12カ月連続の減少
	自動車	2,023億円	▲26.2%	▲6.5	3カ月連続の減少
輸入 増 (1)	有機化合物	★ 296億円	+336.2%	+5.6	2カ月連続の増加
	織物用糸及び繊維製品	★ 204億円	+68.5%	+2.0	12カ月ぶりの増加
輸入 減 (1)	原粗油	196億円	▲28.6%	▲1.9	3カ月連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の貯置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。